



ぼうさい ひつよう 防災ずきんやヘルメットは必要なの

あたま まも ひつよう 頭を守るために必要

だいじしん お たてもの
大地震が起こると、たくさんの建物がこわれたり、こわれかかったりしています。わたし
たちが、ひなん場所へひなんするときに、たてもの たてもの うえ お きけん
建物のこわれたものなどが、上から落ちてくる危険
にさらされています。

こわれかかった たてもの ちか たいせつ なに お
建物のそばに、近づかないことが大切ですが、もし、何かが落ちてきたと
きは、ぼうさい ばしょ たてもの あたま まも
防災ずきんや、ヘルメットをかぶっていれば、頭を守ることができます。このよ
うなわけで、ぼうさい ひつよう
防災ずきんやヘルメットは、必要なのです。

それに、だいじしん おおかし
大地震のときには、大火星になることが、しばしばあります。この火事にあつて、
ひ こ と ふせ
火の粉が飛んできて、防ぐことができます。

1923年に起こった、かんとうだいじしん かんとうだいしんさい
関東大地震（関東大震災）のときは、ひなんするとちゆうに、と
飛んできた火の粉で、かみの毛が燃え上がり、やけしひと
焼死した人が、たくさんいたそうです。

ざ ほん あたま まも 座ぶとんや本などでも頭は守れる

ひと からだ あたま さき まも ばしょ
人の体で、頭はいちばん先に、守らなければならないところです。ひなん場所へひなん
するときに、ぼうさい
防災ずきんや、ヘルメットなどがなければ、ざ ほん
座ぶとんやカバン、本などで
あたま まも
頭を守るようにします。このとき、あたま ざ ほん すこ
頭と、座ぶとんや本を、少しはなすようにします。空気が、クッションのやくわり
役割をしてくれます。

もし、なに も ないときは、て あたま まも うえ
何も持っていないときは、手で頭を守るようにします。このとき、てのひらを上に
む けと お ちてくるもので どうみやく き
向けると、落ちてくるもので動脈を切るおそれがあるので、てのひらを下に向けます。

（監修・国司 真）

